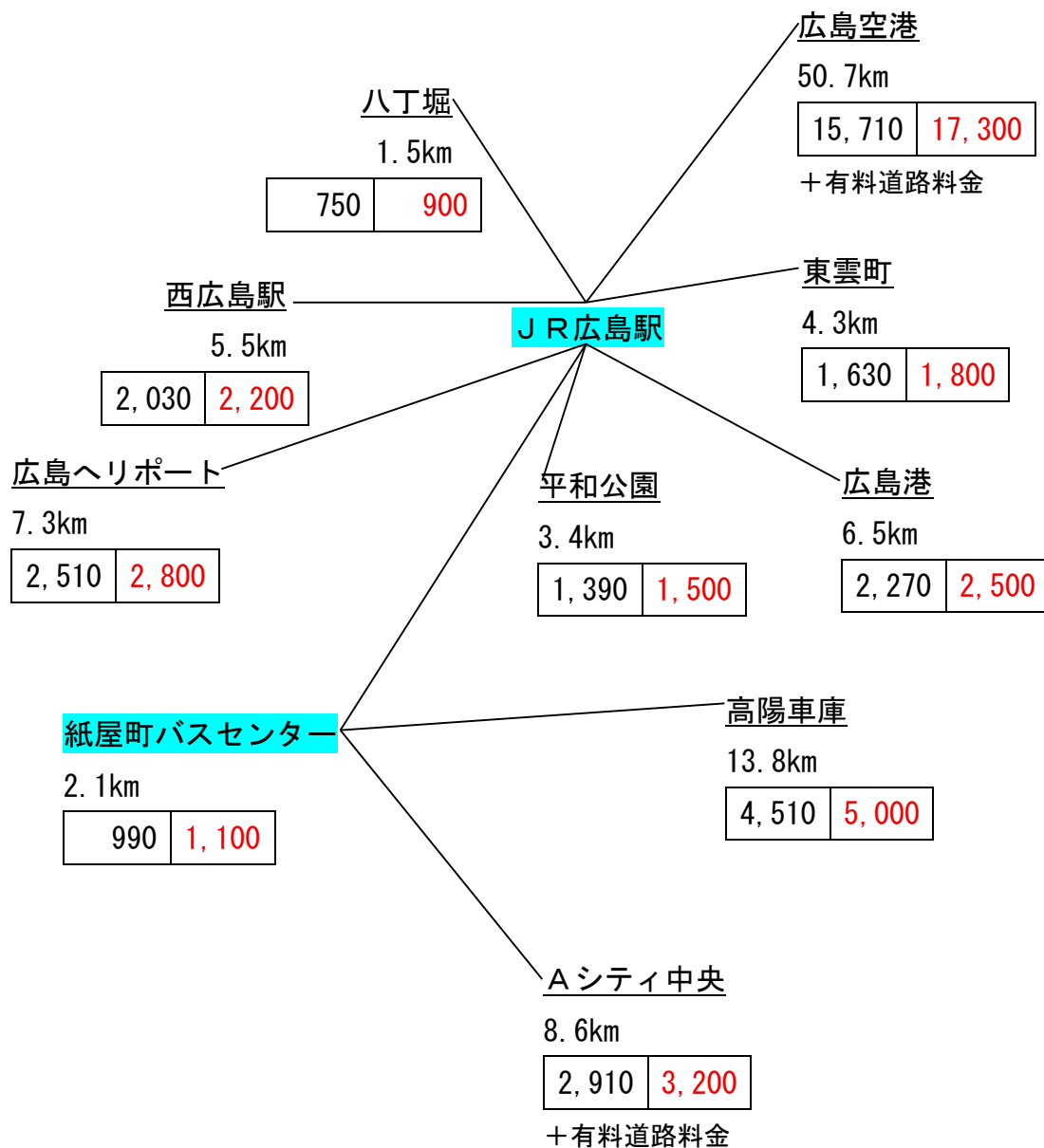


タクシー運賃改定の補足説明について 【広島市域地区】

○主要区間の新旧運賃料金比較表

- 注1 旧・上限運賃と新・上限運賃の比較
- 注2 普通車距離制運賃の比較
- 注3 距離と目的地の関係は目安
- 注4 深夜早朝割増の時間帯を除く

凡例	
距離	
旧・運賃	新・運賃



○タクシー業界における今後の取り組みについて

現在、取り組んでいる事項、また、今後新たに取り組もうとしている事項を紹介いたします。これは、タクシーの全国的な取り組みの一部です。各タクシー事業者は、地域のお客様のご要望等により、計画的に取り組みを進めてまいります。

1. 運行管理の高度化について

自動車運送事業者は、運行の安全を確保するため、乗務前、乗務後の運転者に対して、原則対面による点呼を行うこととされていますが、令和4年4月、同一事業者間による遠隔点呼の申請が開始され、同年7月より使用する機器・システムの要件など、一定の要件を満たす営業所において、遠隔拠点間（営業所一車庫間、同一事業者内の営業所間、グループ企業の営業所間）の点呼が可能となりました。また、自動点呼機器（ロボット等）により点呼を行うための要件や機器の認定制度が創設され、令和5年1月より、乗務を終了した運転者に対する点呼を自動で行うことが可能となりました。運行管理の高度化により安全性の向上と、運転者や運行管理者の働き方改革が促進されることが期待されています。



2. 自動運転タクシーの社会実装に向けて

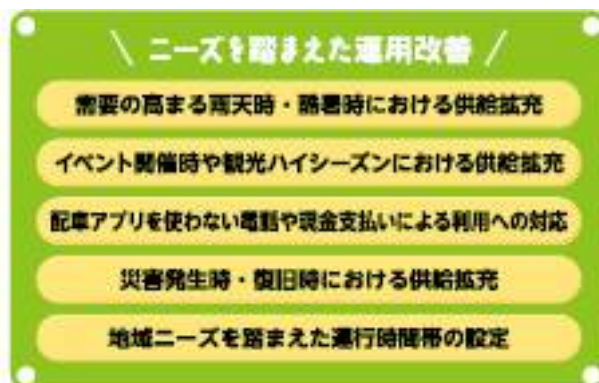
タクシー業界においても、現在のタクシー事業と同等か、それ以上の安全性がタクシー事業者の責任において確保されることを基本として、自動運転タクシーの社会実装に向けて取り組みを進めます



3. 日本版ライドシェア（自家用車活用事業）の実施

地域交通の「担い手」「移動の足」

不足解消のため、令和6年3月、タクシー事業者の管理の下で、自家用車・一般ドライバーを活用した運送サービスの提供を可能とする日本版ライドシェアが創設されました。タクシー配車アプリデータ等を活用して、タクシーが不足する地域・時期・時間帯を特定し、地域の自家用車・一般ドライバーを活用して不足分を供給し、タクシーを補完します。



タクシーが不足する地域・時期・時間帯を特定し、地域の自家用車・一般ドライバーを活用して不足分を供給し、タクシーを補完します。

■導入実績 130 地域、935 事業者、7,927 台

（47 都道府県で導入）（令和7年3月30日）

4. スマートフォンによる配車



スマートフォンのアプリによる配車サービスが広がっています。スマートフォンのGPS機能等を活用し、効率的にお客様をお迎えに上がります。また、令和元年10月からは、配車アプリを活用した事前確定運賃のサービス提供を開始しました。このほか相乗り等の新たなサービスの検討を行っています。

5. ユニバーサルデザインタクシーの導入

健常者はもちろんのこと、高齢者や妊産婦、子供連れ、車椅子の方など利用者にとって乗降の配慮がなされている流し営業も行うタクシーです。国の標準仕様ユニバーサルデザインタクシーの認定制度に基づき、認定を受けたユニバーサルデザインタクシーは、マークを車体に表示しています。平成29年10月に登場したトヨタ自動車のJPN TAXI（ジャパンタクシー）は、LPGハイブリッドシステムによる高い環境性能も備えており、導入が進んでいます



6. インバウンド対応

・母国と同じタクシー・ハイヤー利用環境づくり

タクシー配車アプリについて、外国人のお客様にもご利用いただけるよう、外国語版の導入を更に促進していきます。

・言葉の不安解消

多言語音声翻訳システムを内蔵したスマートフォン・タブレットの導入の検討を進めます。

・決済の不安解消

海外から日本を訪れたお客様にスムーズにタクシー運賃をお支払いいただけるようクレジットカード、電子マネー、交通系 IC カード、QR コード決済対応端末の導入を促進します。

7. 地域の安全を確保する取り組み

タクシーは、**365日24時間**、あらゆる場所を走行しています。



運賃改定は、お客様にご負担をお掛けすることとなり誠に心苦しいところですが、今後も皆様のご要望に出来る限りお応えするよう取り組んでいく所存であります。

なにとぞご理解とご協力をいただけますよう、お願いいたします。